

中長期目標
(学校ビジョン)

聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。

めざす子ども像

【知】学び合う子

【徳】かなえる子

【体】やりぬく子

今年度の基本方針

<基本方針>

1. 一人一人のきこえに応じた学びの充実

2. 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり・保育づくり

3. 自分のきこえを知る・自立活動の充実

4. 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進

5. からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける

学校の合言葉「協働」
<学部テーマ>
○幼稚部…思いをことばに
○小学部…伝え合おう つながろう
○中学部…前進～ステップ/バイステップ
○高等部…前進～ムーブオン
○支援部…めざせ！みんなの頼れるサポーター！！

年 度 当 初					評 価 結 果 （ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
[知]学び合う子 1. 社会で生き抜く力を身につける ①一人一人のきこえに応じた学びの充実 ②「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり	(幼) ・体験的な活動の設定 ・きこえ等、実態に応じた学習機会の設定	・自分の思いや体験したことを伝えようとするが、相手に伝わる言葉を十分確保しているとは言えない。	・自分の思いや体験したこと等を伝えるための言葉が増えている。	・体験的な活動ができるための環境や機会、思いを伝え合う場面を設定する。（なかよしタイム、行事） ・発達段階に合わせて、言葉の力が高められるような学習機会や言語環境を設定する。（朝の会、個別学習、絵本の活用）			
	(小) ・めあてを持った学習 ・聞こえや実態に応じた学習指導の充実	・聞こえや発達段階に個人差があるが、意欲的に学ぼうとしている。 ・考えて解く・まとめる等の学習では、あきらめてしまうことがある。	・めあてを持って進んで学ぼうとしている。	・学部全体で指導・支援方法を共通理解し、授業づくり（めあてやふりかえり、板書の仕方、学習の足跡等）を検討する。 ・集団で学習や行事を計画し、ことばの拡充を図るとともに、関わりながら学び合う集団づくりを行う。			
	(中) ・目標設定と振り返り ・話し合い活動	・各種行事では、学部としての目標と自分の目標の両方を掲げ、学習に取り組んでいる。 ・思いを言語化することに課題がある。	・日々の学習において個人の目標をもって学習に取り組んだり、目標に対しての振り返りをしている。	・目標や振り返りについて学部内や教科担当同士で情報共有を行う。 ・個人の目標設定や振り返りを学習の中に設定する。			
	(高) ・表現の工夫 ・発言を大切にする授業づくり	・日々の授業に真面目に取り組んでいる。 ・一人一台端末を日常的に使用しているが、言葉面やコミュニケーション面でのつまづきが見られる。	・自分の考えを相手に伝えるように積極的に発言している。	・2学期以降に行う一人1授業をとおして、話し合った指導・支援を生かした授業実践や話し合いを設定し、すすめる。			
	(教務部) 円滑な学習活動、行事の遂行	・「学習が分かる」「学習が楽しい」と考えている児童生徒が多い。 ・教師は、個別の教育支援計画や個別の年間指導計画に基づいて指導しており、児童生徒の学習の状況についての理解に努めている。しかし、生徒が自分の学習の状況について正しく理解できておらず、わかったつもりになっている場合がある。 ・教育課程の作成に当たり教科会での検討・学部間での検討ができており、系統的な指導ができる体制を整えている。 ・授業時数の把握ができる仕組みがあるが、すぐに把握できる状況にない。	子どもが「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業が展開されるとともに、自分の学習の状況を正しく理解することができる。	・授業や行事に関して各教科、各学部間の連絡調整を密に行う。 ・毎月の出席簿点検と併せて、授業時数の状況を把握する。 ・定期的に教科会の時間を設け、各教科での連携や教科横断的な連携ができるようにする。 ・個別の指導計画の点検を行い、必要に応じて書き方について確認する場を設ける。 ・児童生徒の自身の学習状況への理解が教師の理解と一致するよう評価の改善をする。			
	(校内教育研究部) 幼児児童生徒の語彙の習得を目指す～「鳥聾スタンダード」の活用とアセスメントに基づく指導～	「鳥聾スタンダード」を効果的に活用するとともに、アセスメントに基づく一貫した指導を教師が協力して行い、語彙の習得に向けて取り組んでいる。	・学部研究会を定期的に関き、語彙の習得に向けた指導・支援の検討、「鳥聾スタンダード」重点項目の設定、授業のふり返しを行う。 ・外部講師を招聘し、指導の改善を行う。 ・参観週間を設けて授業公開し、授業研究を進める。	・幼児児童生徒に合わせた指導・支援方法を検討、「鳥聾スタンダード」重点項目の設定、授業のふり返しを学部研究会にて定期的に行う。 ・外部講師を招聘し、指導の改善を行う。 ・参観週間を設けて授業公開し、授業研究を進める。			
	(情報教育部) 主体的な学びに結びつけるICT活用の推進	・各教師がタブレットやアプリ等を効果的に使う授業が増えてきたが、優れた実践を校内で共有したり、取り入れたりすることが少ない。 ・子どもたちが主体的に学習に活用することが少ない。	「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において「ICT機器を計画的に活用している」と答える教職員が8割以上である。	・ICT機器とアプリケーションの使い方・活用法に関する研修やオンラインやオンデマンドの活用に関する研修を定期的に催す。 ・校内のICT活用の実践報告を行い、ICT機器を活用した教育の促進を図る。			

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
[徳]かなえる子 2. こうなりたい自分・夢をもつ ③自分のきこえを知る ④自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進	(幼) ・様々な活動の設定 ・自尊心を育む見守りや声かけ	・自分で上手くできないことがあり、苛々したり消極的になったりすることがある。	・自分でできることが増え、様々な活動に積極的に取り組んでいる。	・興味や関心が広がるよう様々な活動を設定する。 (なかよしタイム、学級活動、遊びの活動) ・自分でやろうとしている時には見守ったり、少しでもできるようになったことに賞賛の声かけをしたりする。(学校生活全体)			
	(小) ・友達や教師と思いや考えを伝え合う姿の育成 ・自己肯定感の向上	・友達や教師と関わりたい気持ちを持っている。 ・関わりが限定されがちで、伝え方が分からなかったり最後まで話を聞かなかったりして、すれ違うことがある。	・思いや考えを伝え合い、自分や友だちのよさに気づき、関わりを楽しもうとしている。	・よりよい「聞き方・話し方」を学部全体で共有。 ・集団での話し合い活動や制作活動等の経験を積み、聞き手を意識できる環境設定を行う。 ・自分や友だちのよさを実感できる授業づくり、掲示の仕方を工夫する。 ・コンクールや検定等に挑戦する。			
	(中) ・自己理解 ・進路学習 ・進路選択	・素直で互いを思う気持ちをもっている。 ・自分の良さや課題が明確に把握できていない。 ・将来のイメージがもてはじめている。	・自分の良さを知るとともに、相手の良さや思いを受け止め、自分の思いを伝えている。	・話し合ったり、協力し合ったりする場面を多く設定する。 ・自分の目標がより明確になるように中学部廊下や教室に掲示する。			
	(高) ・一人一人の生徒の実態にあった進路の目標設定と進路学習の実施	・自己肯定感が育ちつつある。 ・地域や卒業後の生活におんぼらだけど意識が向いてきた。 ・自主的、計画的に学習することが苦手である。	・進路実現に向け、自主的・計画的に取り組んでいる。	・家庭と連携し、適切な情報共有と見通しをもった取り組みを進めていく。			
	(支) ・センター的機能の充実に向けた取組 ・相談者が安心して頼れる支援内容の充実	・乳幼児教育相談の相談支援や通級指導の実践の充実が少しずつ進む中、専門性の共有や継承を図る必要がある。 ・園や学校など関係機関に対して、具体的な取組や支援内容を十分に知らせているとはいえない。	・乳幼児教育相談・学齢期教育相談・通級指導の実践事例を作成し、専門性の向上につなげている。 ・支援例を作成し、よりよい支援につなげている。	・乳幼児教育相談の実践を学部で検討したり、通級指導や学齢期教育相談の実践を資料にまとめたりする。 ・聴覚障がいに関わる情報交換会や研修会で支援例を紹介する。			
	(自立活動部) ・自立活動の指導を円滑かつ効果的に行うための教職員研修の実施。 ・自立活動の指導の充実を図る。	・一昨年から、すぐに授業に生かせる研修になることを目標に、研修を計画・実施している。 ・どこにどのような教材教具があるか把握することが難しいため、周知している。	・自立活動勉強会を開催し、自立活動の指導の充実を図る。 ・自立活動に関する資料を自立活動部員が把握して情報を発信することで資料の活用がスムーズにできるようにする。	・自立活動勉強会を年4回実施する。 ・自立活動に関する教材教具の情報発信を学部会やノーツ連絡などで発信する。			
	(進路指導部) ・自分の良さを生かした進路選択 ・将来働く上で必要な力の定着	自分の適性や能力、興味・関心など自己理解を深めるために体験学習の充実やキャリアパスポートの活用と学部間連携が必要である。	・卒業後や次年度に向け、将来働くために必要な力を身につけるための指導や支援を行っている。 ・キャリア教育の充実に向け、キャリアパスポートを活用するなどして発達年齢に応じたキャリア形成をしている。	・子どもや保護者の考えを聞く機会を設けて実態把握をし、見学先や実習先を決定していく。 ・進路学習や体験学習の成果や課題などを自身で振り返ったり保護者と共有したりするためにキャリアパスポートの活用を進める。			
	(総務人権部) ・子どもたちの活動の様子 の掲示 ・学校の魅力の発信	・担当教員人数が少ないことから負担が大きく、掲示が少ない場合があり、業務効率化を進めるための工夫が必要である。 ・学校の魅力を発信しきれていない。	・効率的な掲示が進んでいる。 ・魅力的に発信することができている。	・業務内容の検討や改善を行う。 ・掲示を工夫し、視覚的に魅力が伝わるようにする。			

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
[体]やりぬく子 3. あきらめない体力・気力 ⑤からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける	(幼) ・自分の身体への気付き ・多様な動きの経験	・体を動かすことは好きであるが、動かし方に不器用さがある。	・体の動かし方が上手になり、楽しんで体を動かしている。	・身体のような部位を意識して動かす時間を設定する。(おはようタイム、なかよしタイム) ・様々な動きを経験するため、外部講師による専門的な指導を受ける機会を設定する。(外部講師：チャレキング)			
	(小) ・体力の維持・向上 ・動きの経験の拡大 ・挑戦意欲・達成感	・体を動かすことを好む子どもが多い。 ・生活経験の少なさから遊びや活動が広がりにくく、消極的な面がある。	・進んで体を動かし、いろいろなことに挑戦しようとしている。	。体育や休憩時間の活動を通して、様々な動きのレパートリーを増やし、体力の維持向上を図る。 ・実態に合わせた外部講師の指導の機会拡大を図る。 ・年度初めに、元気タイムの年間計画を立てる。			
	(中) ・基本的生活習慣の定着(挨拶・服装・言葉遣い) ・基礎体力の向上	・友だちとの活動を楽しむことができる。 ・基本的生活習慣が少し定着している。	・基本的生活習慣の(挨拶・服装・言葉遣い)定着をする。	・挨拶や場にふさわしい言葉の使い方について、引き続き、毎朝、声明けを行う。			
	(高) 生徒の挨拶等への意識向上と習慣化	・挨拶や返事、提出物の習慣化が少しだけできようになっている。	・挨拶や返事、提出物等の提出が身についている。	・特に挨拶については、マナーアップ運動や学校祭など機会を捉えて指導を行う。			
	(生活安全部) ・健康で安全な生活習慣の徹底 ・健康維持を意識し、体を動かす楽しさを知る活動の設定	・食事や生活時間に対する意識は高まってきてはいるものの、メディア時間や運動時間には変化が見られていない。 ・各学部 of 体育学習で体づくり運動や体力作りに取り組んできてはいるが、取り組みに対する態度には差がある。	・健康な生活習慣の大切さを理解し、自ら進んで体力づくりに取り組もうとする。	・長期休業の事前・事後の指導の充実を図り、生活習慣(生活リズム)の見直しを行う。 ・全校行事や学部行事などを通して楽しく体を動かす活動を計画する。 ・各学部の実態に応じて健康維持を意識した取り組みを実施する。			
4. 業務改善 ⑥子どもと向き合う時間を充実するための業務改善	(働き方改革) ・業務分担が行われ、適切な業務遂行がなされている。	・自分自身の働き方にメリハリをつけ、自己管理の意識が高まってきているが、個人差がある。	・月45時間以上の超過勤務者数、年360時間以上の超過勤務者数1割未満。 ・業務支援員の積極的な活用。	・毎月2～3回の帰らーデーを設定し、計画的な業務、時間の使い方の意識を高める。 ・役割分担、業務改善へつなげることができるよう、時間外勤務の理由の聞き取りを行う。		A	
	(円滑な学校運営) ・学部運営・分掌運営に関して共通理解が図れている。	・分掌組織が変わり、分掌部長も一新した。学部主事主任・部長任せではなく、組織として企画運営するために相談していくことが必要である。	・各学部・分掌において主事主任、部長を中心に相談、企画ができている。誰もが自分の属する部、分掌に対して説明できる。	・各学部・分掌の提案時に部主事主任、分掌部長以外が提案する機会を持つ。			

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだまだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)